

関東と関西における笑いの地域差について —若い世代はいかにして笑いを獲得するのか—

天羽 祐輔

本研究では、笑いの芸能が古くから根付いている関西（奈良・京都・大阪・兵庫・滋賀・和歌山・三重の二府五県）と、関東（茨城・千葉・栃木・群馬・埼玉・東京・神奈川の一都六県）における笑いの違いについて、若い世代に着目して明らかにすることを目的とした。

研究方法として、インタビュー어의笑いの嗜好が得られる半構造化インタビューを大阪、東京、茨城の四つの大学（東京都立大学南大沢キャンパス、中央大学多摩キャンパス、近畿大学東大阪キャンパス、筑波大学キャンパス）で実施し、18~24歳の若い世代の49名を対象に、「関東」、「関西」、「その他地域」にデータ区分し、笑いの地域差について調査した。

インタビュー調査から、まず東西を問わず、笑いをめぐる若い世代の文化が明らかになった。若い世代の6割が、笑いによりストレス発散や気分転換をしたい場合の手段として「YouTube」を視聴していた。また、過去に面白いと感じた出来事を調査した結果、「つきあいの長い友人と過ごす時間」という状況での笑いの獲得が多く挙げられた。さらに、テレビ局制作のバラエティー番組の視聴傾向については「見ない・あまり見ない」と答えた者が56%で、「見る」と答えた者も、テレビ放送ではなくYouTube（切り抜き）やTVerなどのインターネット動画を好んでいた。

次に、関東と関西における笑いの地域差についてである。好きなお笑い芸人の調査で顕著だったのが、関東では、関東・関西以外の地域や関東出身の芸人、関西出身の芸人がそれぞれ挙げられていたのに対し、関西では関西出身の芸人ばかりが挙げられたことである。また、好きな理由についても関東と関西に地域差が見られ、関東では「誰も傷つけないお笑いだから好き」や「悪口を言わないから好き」、「いい人そうだから好き」といった理由の回答が多く見受けられたが、同様の回答は、関西では一切見受けられなかった。むしろ関西では、「性格が終わっているから好き」や「無茶苦茶をするから好き」などどちらかと言えば関東の好きな理由とは逆とも言える回答が見受けられた。関西のインタビューーからは、関西人が直接的な表現を好み、関東の人と話す際、その発言に嫌悪感を持たれることがあったり、驚かれたりすることがあるという発言が複数あった。このような日常のコミュニケーション形式の違いが、笑いの好みの違いを生み出していると考えられる。

さらに、笑いのイベントやライブへの参加率に関しても、「参加する」という割合が関東では25%であるのに対し、関西では53%となり、関西の方が積極的に笑いを求める傾向にあった。漫才の起源は明治39年から始まった大阪・神戸の寄席とされており、吉本新喜劇を代表として現代でも関西では笑いに対する距離が近く、関東と関西における大きな地域差であると言えるだろう。古くから続く笑いをめぐる地域の文化が、マスメディア時代、そしてインターネット時代においても、人々に影響を与えている。

（指導教員 寺地 美奈子）